

# 本校の特別支援教育

別海中央小学校 平松 正也(佐藤 知子編)

# 1. すずらん学級経営の目標 及び 基本方針

①

子ども達の抱える困り感（学習面，生活面，コミュニケーション面）の解消・減少を図り，将来の自立に向けて必要な力を身につけさせる。また，子ども達の良い面をのばし，人から好かれ，いきいきとした子どもに育てる。

②

子ども達の抱える困り感（学習面，生活面，コミュニケーション面）を解消・減少させるための効果的な支援・配慮や環境整備の方法を子ども周辺の困む人々（教師，友達，家族など）に伝えるとともに，共生社会の構築を図る。

「**共生社会**」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった**障害者等**が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、**誰もが相互に人格と個性を尊重し**支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える**全員参加型の社会**である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。

《文部科学省 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告) 概要より》

共生社会

環境整備

(合理的)配慮

支援

指導・叱責

画一の指導



強制社会

③交流学級にて発達段階に応じた**障害者理解**の教育を図り、**障害の有無に関わらずすべての子どもが共に学び合い生きる喜びを実感**できるようにしたり、人の**公平性**を認められたりするようにする。

# 今、すでに動いていること、動き出したこと①

## ◎子どもたち同士のつながり

- 障害者理解の教育
- 環境整備や支援・配慮の方法を見る機会や体験の保障
- 交流場面の保障
- 縦割り班活動
- 特別支援学級合同学習



# 今、すでに動いていること、動き出したこと②

## ◎先生方の連携

- ・子どもたちの実態およびそれに応じた指導・支援の仕方の追及
- ・研修などで得てきた情報の交流
- ・すずらん打ち合わせ（連絡調整だけでなく、子どもたちの近況・課題について共有と連携）

# これからの課題

- 特別支援は、すずらん学級のお子さんのためだけなのか？
  - 特別支援は、すずらんの職員だけが行うのか？
  - 特別支援とは、すずらん学級（教室だけで行うのか？）
  - 特別支援とは、就学期だけで終了するのか？
- (▪ 系統的な障害者理解の教育のカリキュラムの編成)
- (▪ 職員の変動に左右されないサポート体制の確保)

相談室・保健室

支援部

特別な教育的ニーズを要する児童

すずらん教諭

TT教諭

特別支援コーディネーター

教育相談員

養護教諭

すずらん教室

通級指導教室

通常教室

多様な学びの場

共生社会

障害者理解の教育

《P7》

## 7. 共生社会の構築のために

本学級では、それぞれの児童の困り感を解消・減少し、各々が発達要求に応じて、主体的かつ必要感をもって、共生社会に参加できることを目指す。そこで、共同学習の場面では、児童に関係する職員が以下のような共通理解をもって指導・支援および環境の整備を図る。

このとき、極力効果的な指導・支援および環境の整備を図れるように、すずらん職員は担当する児童の枠を超えて連携を図りながら働きかけをする。すずらん支援者は、共同学習場面などにおいて特に支援などの必要が高い場面について事前に判断し、各学級の支援者となっている職員が連携・連絡を取り合いながら共生社会の整備を図る。また、交流学級担任とも連絡を取り合い、連携したり、指導・支援を補い合ったりする。

《1年2組》すずらん支援者：〇〇 〇〇 交流学級担任：□□ □□

### ①交流学級の実態

学習面の特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>○分かることを積極的に発表しようとする児童が多い。</li><li>○ひらがな探しや算数の活動を意欲的に行っている。</li><li>○読み聞かせは集中して聞くことができる。</li><li>●文字を書く時に丁寧に書く意識が低いため、高めていく必要がある。</li><li>●中央っ子のやくそくにある、話を聞く姿勢や発表の仕方を定着させ、メリハリをつけて学習することができるようにする必要がある。</li><li>・注意・集中の困難が際立っている児童や視覚的情報の独特な捉え方をする児童などがいて、ITなどと連携した対応が日常的になされている。</li></ul>
生活面・社会的発達の 特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>○自分から挨拶をする、何かをしてもらった時にお礼を言える子が多い。</li><li>○給食を残さず食べる子やおかわりをする子が多く、残食が少ない。</li><li>○大休憩の後には時間を意識して教室に戻ってくるのが少しずつできるようになってきている。時計を見て行動する姿勢をもたせていく。</li><li>●集団で遊ぶよりも、1人遊びや少人数で遊ぶことを好む子が多い。</li><li>●自分のやりたいことが抑えられなかったり、他のことが気になったりすることが原因で、集団の中で場に応じた行動をとられない子が数名いる。</li><li>・集団での遊びよりも個人もしくは少人数の遊びを好む児童が多い。</li></ul>
すずらん児童と関わる 社会形成の特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>○必要に応じて個別的な支援や配慮がなされることを大きな違和感なく受け入れている児童が多い。</li><li>・子ども同士の積極的なかかわりが少ないこともあり、積極的な支援や配慮、対立などは少ない。</li></ul>
共生社会の観点から の目指す学級像	<ul style="list-style-type: none"><li>・多様性を認めるだけでなく、それぞれのよさを見つけ出そうとする学級集団。</li><li>・みんなが力を合わせて何かをがんばることに価値があると思える学級集団。</li></ul>

## ②共同学習の支援計画

児童名	日常生活場面の特徴	目指す児童の姿	指導・支援の手立て	環境整備の手立て
A	○ ●	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き逃している全体的な指示について、再提示を行う。</li> <li>・細かい判断の基準は、常に交流学級担任に戻す。(子どもに尋ねに行かせる。)</li> </ul>
B	○ ●	・	・	
C	○ ●	・	・	

## ③日常生活場面の支援計画

児童名	学習参加の特徴	目指す児童の姿	指導・支援の手立て	環境整備の手立て
A	○ ●	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の生活の流れや生活に必要な基礎的な情報を黒板などに明示しておく。</li> <li>・すずらん在籍に関わらず、必要に応じて支援して、支援・配慮を自然なものとする。</li> </ul>
B	○ ●	・	・	
C	○ ●	・	・	

すずらん担任が、  
すずらん在籍児  
童を指導・支援  
する



全職員が連携  
して、特別な教  
育的ニーズの  
あるすべてのお  
子さんの指導・  
支援にあたる。

# 「(2)基本方針」

(1) アセスメント(評価)

(2) 計画

- ・個別の教育支援計画

- ・各教科・活動の個別指導計画

(3) 実行

(4) 評価

(5) 改善



# 個別の教育支援計画

## (1) 作成の目的

「個別の教育支援計画」は、障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的とする。

また、この教育的支援は、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組が必要であり、関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠である。他分野で同様の視点から個別の支援計画が作成される場合は、教育的支援を行うに当たり同計画を活用することを含め教育と他分野との一体となった対応が確保されることが重要である。

## (2) 対象範囲

障害のある幼児や児童生徒(以下、単に「児童生徒」という。)で、特別な教育的支援の必要なもの。

※幼稚園から盲・聾・養護学校の高等部、高等学校段階までの者を中心に考える。

### ○障害の範囲

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、言語障害、情緒障害、LD、ADHD、高機能自閉症 等

# 「個別の教育支援計画」作成のポイント

- (1) 子どもの生涯にわたる自立と豊かさを提供するものになっているか
  - ① 子どもをどれほど深く幅広く理解しようとしているか
  - ② 子どもの主体的幸せを求めているか(本人及び保護者の参画があるか)
  - ③ 共生社会を意識しているか
  
- (2) 確かな未来を保障しようとしているか
  - ① アセスメントとPDCA
  - ② 長期的視点と短期的視点になっているか
  - ③ 実際に活用できるレベルのものか
  - ④ 成長の足跡とともに未来への視点に立つ

# 「教科・活動の個別指導計画」作成のポイント

(1)「個別の教育支援計画」が具体化されたものであるか

- ①指導事項が明確であるか
- ②自立活動の視点が含まれているか

(2)保護者とともに振り返られるものであるか

- ①保護者と話しやすい情報量を意識しているか

→資料へ

# 研修部 すずらん部会 研究の積み重ね

渡辺教諭

- ◆指導事項をはっきりさせて、何を学ぶかが明確な授業作り。

中野教諭

- ◆児童が社会で生きていくために必要な、対人スキルを身に付ける。

平松教諭

- ◆ゴールを児童にも明確に示すことで、見通しをもち、安心できる授業。

清藤教諭

- ◆到達度や得意不得意に合わせて同じ授業でも個に応じて教具を変える。

羽石教諭

- ◆発達障害を抱える児童における「考える力」とは・・・？

木村教諭

- ◆児童の興味関心に合わせて課題設定、活動内容を設定する。

# すずらん部会設定の重点

- ①「児童の実態を踏まえた個に応じた指導」
- ②「児童が豊かな生活をするための生きた力を付けさせる。」

